



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19

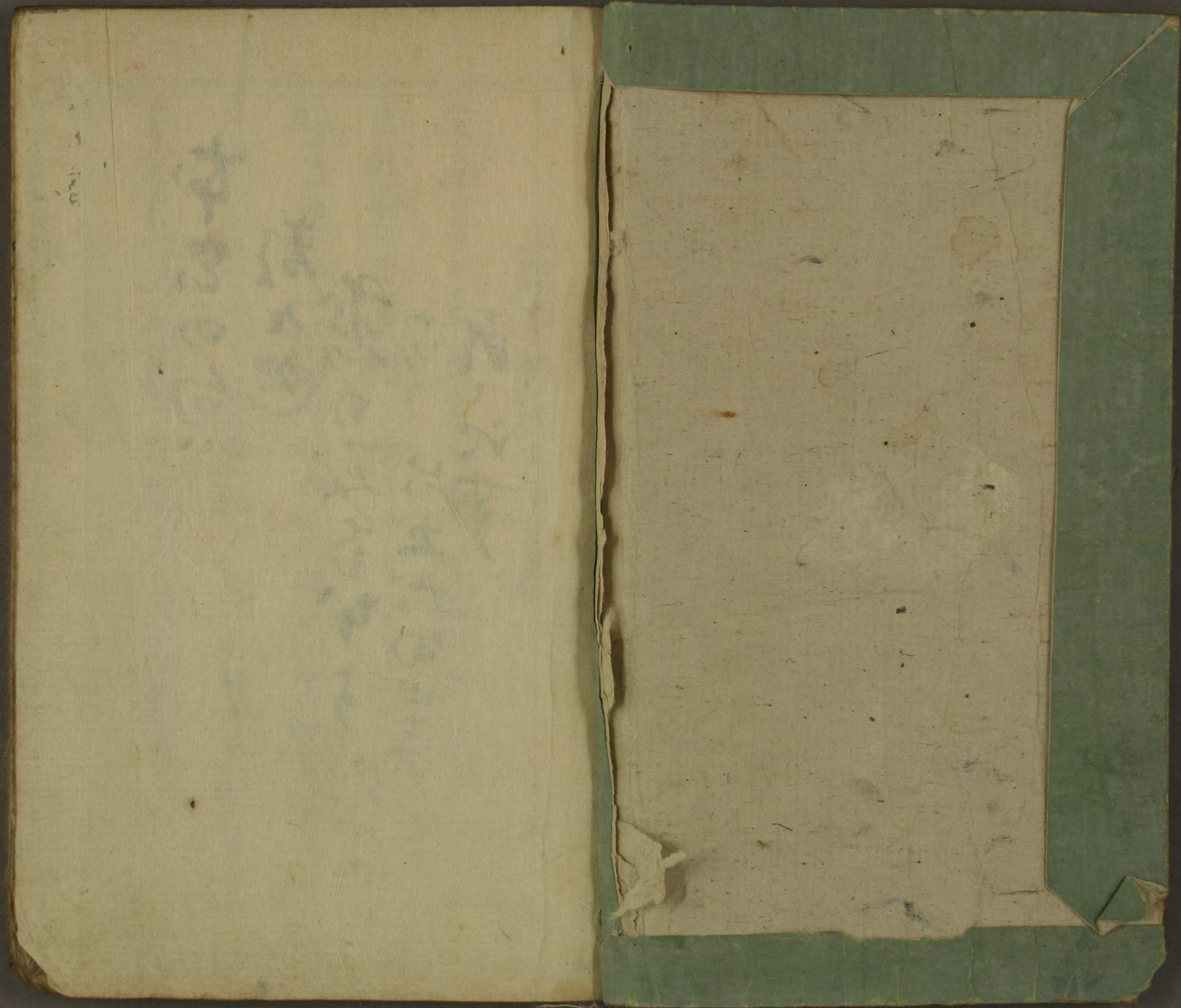


夢國物語

特別  
~7  
3614









割 1  
3614

本虫の句

都々逸

恋のまもがようたじ  
あり 六五句田甚とあり  
に記す

英玉振のたし書

大正五年  
宝井平藏氏贈

今世よのまのたのたうへおあある人へ  
まの素も漢格とありける。ちるをいけみはら  
ぬる大人への中人のみやびを和がと好て  
たあへらりとゆえやう。つとあま那死  
まのまののあまも。廣くのみあまらるる  
あまらるる。あまらるる。あまらるる。かき

あまらるる







和歌三神

人丸大明神

浪も何〜ま

衆も何〜と

何〜の〜

髪〜

玉津嶋大明神

かげ〜

お〜

きい乃園

まね〜あ〜

たま〜

住吉大明神

あ〜

とせ〜

ま〜の姫〜

袋代姫〜

〇みまぶり

三〇



意好  
曜文画



百人一章道化小倉都二

天智天皇

小園のかり物よ

あつとあつと

あらんちよ人の捨と云

持統天皇

なほあふけり皆

白娘の

あつとあつと

茶屋女

柿本人麿

あつとあつと

あつとあつと

あつとあつと

山部赤人

あつとあつと

あつとあつと

あつとあつと





あつち  
あつち  
あつち

めみぢらあまのけしき 藤原よりも  
あまのけしき 藤原よりも

猿丸大夫

かきくぎの渡き 橋き入 仲夜果を  
あまのけしき 藤原よりも

中納言家持

ぬのあつちをふりかけ 藤原よりも  
みくさ 秋月より 満月のか

安倍仲磨

赤い花の見えるか 茶 橋  
あまのけしき 藤原よりも

喜撰法師

巻のいろ 夢結うるを 藤原よりも  
あまのけしき 藤原よりも

小野小町

性も 油も ききくを 藤原よりも  
あまのけしき 藤原よりも

蟬 丸

橋を 目何を 舟渡 藤原よりも  
あまのけしき 藤原よりも

参議 篁

雲の ちよひ 浴風 吹と 藤原よりも  
あまのけしき 藤原よりも

僧正 遍昭



陽成院

みみの川をいそぐや

あはけのうた

あまのついで

あまのついで

河原左大臣

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで



光孝天皇

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

中納言行平

あまのついで

あまのついで

あまのついで





神代も岐の山かまろえんるのま  
日くや小えらるの勢田川

在原業平

岸よるわも小あひくゆらき  
ゆえのこよひちと谷なり

藤原敏行朝臣

なるがみじのたきのるんと  
とりしこまはふらなり

伊勢

身を洗くも春のあけぬ  
人母つらさる事もいなる

元良親王

今んとまを移しをよめようけそ  
のまやみ明勢のちかく

素姓法師

あひあの人と逢坂やまのまを  
人よ知まてあるり勢の

三條右大臣

秋の草木の志あむをよそも  
かきこころやすの道と戸

文屋康秀

秋いなくあるめ所あるあしき  
季あひくはるはるまじり

大江千里





管家

酒のさうめん

まぐさとり

何んぞ

貞信公

峯名

もみ

ぢりめ

何

るん

路を

小倉山とふたご

りる

中納言兼輔



飲どもはきさめい

あはれ川

こいしつるべ

ゆき香

源宗行

朝臣

多岐高の

さしめいよはちん

人のくさるん

みまはし



あまの  
のんごの  
みま  
ろめ



どきどきあやうう松子のさねを  
おののちらぎく月うはる

凡河内躬恒

物結らうまがあひのあを  
あんのきくく月

壬生忠岑

あひの月とるまをよの  
けきいあう雷あり積る

坂上是則

新とくよあうら  
あうまもあひあひ

春道列樹

あうのどけきまんらん  
月もひらぬよ

紀友則

うてえの夢たるま  
おもさうえる松

藤原貞風

花結安のゆり  
とらむの香の

紀貫之

まの骨と思ふもあ  
雪のいつかり月

清原深養父

〇みまぶら

〇七



文屋朝康

風吹くをき

より人の心

ちりやま

右近

志らるる身

志のこもる心

それおぼ

神と



参議篁

小の篠原あつと

あつとあつと

あつとあつと

あつとあつと

平兼盛

あつとあつと

あつとあつと

あつとあつと

あつとあつと



のみま

〇十







大中臣北宜朝臣

清土のつて火と

糸ののち

ひのきもて

よりの

藤原義孝

藤原のつち

あぐくもかみと

かのみもかま

あぐく

藤原實方朝臣

えやいらふと

まの

よくも

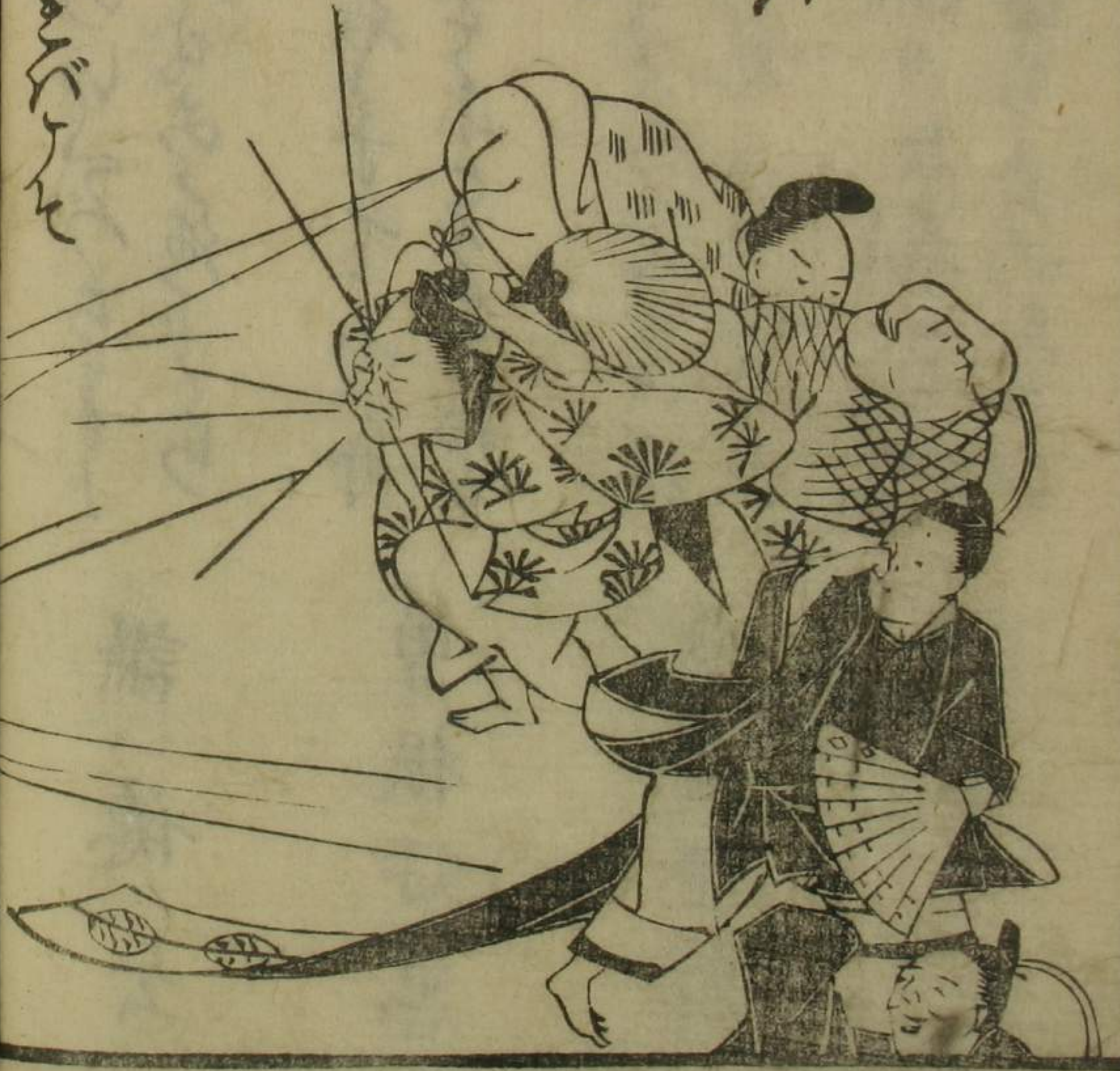
藤原道信朝臣

あひるや

さて

か

うらめ





おとら藤の枝結そのあくるるあは  
りつらつひさし心も結わゆるひ

右大將道綱母

おましまらどや汗はるるあまでも  
かこひちのひのらまなりくる

儀同三司母

夜もやどてらも久くあままた  
しきつあづまのあまたらう

大納言公任

とてしこのよ結わゆるひであら  
あまよと食しやうぶあまえふ

和泉式部

あぐりあひくもやそまとも  
とらぬらちよまらるる雲隠の

紫式部

つとやあまの氣がのりまやま  
しきつあづまのあまたらう

大貳三位

あそどら来如夜のかくあまを  
月のかすすや明のこのち

赤深衛門

あまの結をさそらくののみを結  
きふたむちをぬるのつと

小式部内侍



伊勢大浦

形づのきくらひのあきも

八重と

りよ家が動くらぬ

よふつり

清少納言

とらのそらぬ

よそのりもせうが

ぬのそらぬ

とらぬ



左京大夫道雅

たつひひらき

人徳たつひ

りあつたつたつ

ゆりか

中納言定頼

宇治の川ざり夜

あけを

せき細代

見えん





大僧正行尊  
日しやひとるを麻のまん

大僧正行尊

相換  
今もつらき花をまらぬ

相換

周防内侍  
由光よさきるるをせぬ

周防内侍

三条院  
あひの野よすむらさき

三条院

能因法師  
かちもさむらひの

能因法師

良暹法師  
あはれをやりておま

良暹法師

大納言經信  
のしとる門田のいな

大納言經信

禰内親家紀伊  
あはれをやりておま

禰内親家紀伊



下戸のお酒と 前中納言匡房

弁山酒かきこ

たきごとやろり

のしごよる

源俊頼朝臣

あんのろりめと

しろせせろり

とげひのれそん

新りやせぬ

藤原基俊



ちりちり種もむねのあしと  
あつあつつのもろけのいろ

法性寺入道前關白太政大臣

中井しんろかよ帳のねんそ

あまろりあまねん

うもえ





あまのこゝろをいひまら

崇徳院

あまのこゝろをいひまら

源兼昌

あまのこゝろをいひまら

左京大夫顯浦

あまのこゝろをいひまら

待賢門院堀川

あまのこゝろをいひまら

後徳太子大君

あまのこゝろをいひまら

道因法師

あまのこゝろをいひまら

皇太后宮女復成

あまのこゝろをいひまら

俊惠法師



西行法師

かぢらや第静しずか

あまのやまに

なやみののち

よくまを

寂蓮法師

はなと

のこり

あはれ

秋あきのゆめ

よくまを

皇嘉門院別當

あはれ

とよあらし

あはれ

あはれ





つる  
や

〇みまふり



〇十九

ゆ 舟に身をまかせ

殷富門院大浦

ゆき 一何れも

ゆき ほど

よあけの

よふ けいり

ゆき ぬり

ゆき ぬり

ゆき ぬり



式子内親王

あんな たまの緒

たぐい







從三位家隆

あつろ乃小川忠

ゆあふくくせし

あつろまきし

とぶあつろ

後鳥羽院

あつろのあつろ

あつろあつろ

あつろ



あつろあつろあつろ

あつろあつろ

順徳院

あつろあつろ

あつろあつろ

あつろあつろ

あつろあつろ

あつろあつろ





情涼茶

のりおの

あひひ

穢りく

香の道

かゝいぢりりか

女ぢりりいぞ

小野の小町のまゝを

いふ



羅舟  
甲午





110



